

被災者と支援者の交流で「心のセーフティーネット」を！



「ご近所仲間」をつくるための交流の場。みなさん笑顔です。

2015年9月に発災した常総市の水害から半年あまり、つくば市民大学は継続して被災者支援活動に取り組んできました。その一環として、「たすけあいセンター・juntos」と共催で、つくば市内の公務員住宅などで避難生活を送っている常総市の被災者と支援者が集う交流会を開催しています。第二回目となった1月30日の交流会では、約15名の方々が参加。茨城大学の学生ボランティアや支援する市民団体の方々とともに、お茶やお菓子をつまみながら、つくば・常総の地域情報を交換したり、足湯でリラックスするなどしました。また、会場では、支援物資として集められた衣類や生活雑貨などの配布も行われました。交流会は今後も定期的に開催。お花見や体をほぐす整体など、被災者と支援者が楽しみながら交流する場をつくることで、「心のセーフティーネット」を築き、孤立を防ぐ役割を担っていきます。

みなみそうま復興大学で出張ワークショップ開催！

2月6日・3月26日の二日にわたって、代表幹事・徳田が、復興支援でご縁のあった「みなみそうま復興大学」に赴き、出張ワークショップ「『学びあいの場』のつくりかた@南相馬」を開催しました。みなみそうま復興大学とは、地域に思いのある住民・企業・団体等の地域の主体と、大学等外部の復興支援に思いのある人たちが、お互いの活動を知りあうことにより、地域における具体的な活動を共有し、まちづくり・ひとづくりを通じた「地域力」の向上を目指す「大いなる学び(大学)」の場です。ワークショップには25名の方が参加、「自分たちのまちの未来を自分たちでつくりだす」ための学びあいの大切さを感じ合ったのち、それぞれがどんなことに取り組みたいかを話し合いました。震災から5年が経過した現在。南相馬の復興・未来に向けて、市民による主体的な行動を起こすきっかけとなったでしょうか？



「対話の場づくり」による復興支援はまだまだ続きます。

旧暦の大晦日に「望年会」を開催！



みんなで「かんたんジャグリング」に挑戦。思わず夢中に。

旧暦の大晦日2月7日、恒例の「望年会」が開催されました。まずは、スカーフの「かんたんジャグリング」でウォーミングアップ。空中をフワフワと舞うカラフルなスカーフは見た目も綺麗でした。もうひとつのプログラムは、「『しないこと』リストをつくろう！」。日頃「何かをする」という目標が増えがちな私たちですが、「しないこと」リストを作り、自分の中をいったん空っぽにすることで必要なものが入りやすくなるようです。皆さん真剣に取り組まれました。二つめは、「あいうえお作文」に挑戦。使用した文字は「はなひらく」。「は」から「く」までの文字を、それぞれ先頭に置いて今年叶えたい夢を作文にしました。作文を皆で共有することで、夢を形にする一歩となったようです。「私たちができる小さな一歩」として、フードドライブも開催。参加された皆さんの夢を発見し、叶うきっかけづくりとなる時間となりました。

つくば市民大学はこんな人たちがやっています！

～ 北村まさみさん ～



つくば市民大学の発展・成長のために、定期的に会議を開き、熱心に活動方針を話しあい、講座企画・運営を先頭となって引っ張ってくれている5名の幹事のみなさん。普段はなかなかオモテに出ることはありませんが、「市民大学ってどんな人たちがやっているの？」という会員のみなさまの素朴な疑問にお応えして、ユニベルだより紙上で、幹事の方々のプロフィールをご紹介します。今回登場するのは、障がいのある人・ない人の「ともに」の場をつくる活動をしている北村まさみさんです。

●出身地 埼玉県

●好きなこと カヌー、山歩き、博物館・美術館めぐり、路上観察

●個人的な目標

硬式テニスのラリーが続けられるようになること

●市民大学で企画した講座

ちょっと昔の、住まいとくらし～筑波山麓の古民家でしめ縄づくり～／里山入門／多様性に気づく、多様性を築く～「いけばな」を通して～／贅女(ごぜ)文化にさわる～ユニバーサル・ミュージアムの可能性を求めて～／多様性に出会える図書館～読書のユニバーサルデザインを目指して～／障害平等研修(DET)体験を通して考える／アートコモンラボ／いっしょに楽習会

●市民大学以外での活動

つくばバリアフリー学習会 誰もが住みやすいまちづくりに関する、バリアフリー・ユニバーサルデザイン・インクルーシブデザインを広げるための学習、活動

NPO 法人 宍塚の自然と歴史の会 土浦市の宍塚大池を中心とした市街地近郊における里山保全活動など

●今後の抱負

市民大学での講座実践から、多様な人がいる場だからこそ生じるもの、みえてくるものがあることを実感。また、会うことで、ともに居る場では何をどうしたらいいか、お互い考えるようになるというのみてきました。より広くつながり、多くの方に一緒にいただけるような場を作っていければと思っています。

2016年つくば市民大学学園祭

ソーシャルIDOBATA会議 & ONAKAMAおむすびランチ

「ソーシャル IDOBATA 会議

(I=アイデアを D=どんどん B=バンバン T=たくさん出す)」では、つくば周辺地域のサステナビリティ、ダイバーシティ、コミュニティなどの各分野の「社会を変える実践者」が大集合。参加者全員で、未来に向けてのさらなる一歩を考えます。

昼食休憩は「ONAKAMA おむすびランチ」。

会場に集まった多様な人々と「同じ釜のメシ(=ONAKAMA)を食べて、ONAKAMA(=お仲間)になろう」という、市民大学流パワーランチ会です。各分野のスペシャリストとの新たな出会いをお楽しみいただけます。人が集まることで新たなアイデアが生まれるワクワクを体験しましょう！

■日時 2016年6月12日(日) 10:45～14:45

■参加費 無料

同日 15:00～17:00 はユニベルシタスつくば通常総会です。

あわせてご参加ください！

※詳細は同封のチラシ参照

代表幹事・徳田の「オススメの一冊」

山口裕之(著)『人をつなぐ対話の技術』

(2016年3月・日本実業出版社)

書店では、ビジネス書のコーナーに並んでいました。確かに版元も、実用書を専門とする出版社です。しかしこれは、ビジネス書のコーナーに置くべき本ではないですね(良い意味で)。「対話の技術」というタイトルから想像するような内容ではありません(良い意味で)。対話のノウハウを得ようと思って読むと大きく裏切られます。いわば「ノウホワイ」、なぜ民主主義には対話が不可欠なのか、なぜ対話ができない社会となってしまったのか、対話によって何が得られるのか、といったことが、熱く語られています。

「民主主義とはすべての市民が賢くなければならないという無茶苦茶を要求する制度なのである。そして、対話のみが賢明な市民を育て、民主主義的な社会を作る。対話の回路が遮断されてしまえば、民主主義は緩慢な死を迎え、多くの市民が気づかないうちに、世襲的特権階級が支配する階級社会になってしまうだろう。」(p.276)

ヘイトスピーチや安保法制をめぐる「論戦」への批判的言及など、随所に(いま・ここ)と切り結ぶ姿勢も見られ、シチズンシップ教育の文脈で読むこともできるでしょう。(徳田)

スタッフよりヒトコト

昨年の常総水害の爪痕はまだ生々しいなか、今度は熊本で大きな地震。つくば日本は災害列島なのだと思います。2009年の発足以来、東日本大震災、常総水害と災害が起こるたびに、市民大学は復興支援の拠点として活動してきました。今回は、私たちに何ができるのでしょうか？ いち早く現地で活動をはじめている方々に心からのエールを送ります。そして、被災地の方々に一日も早く平穏な日々が戻ることをお祈りしております。(とこり)

つくば市民大学

〒305-0033 つくば市東新井 15-2 ろうきんビル 5階

TEL: 029-828-8891 Fax: 029-828-8892

e-mail: info@tsukuba-cu.net Twitter: @tsukuba_cu

web サイト・Facebook: 「つくば市民大学」で検索